

# 2020年8月期 決算補足説明資料

 ユーピーアール株式会社

(証券コード：7065)

2020年10月15日



# 1. 2020年8月期 決算説明

## 業績関連ハイライト

- 対前年**増収増益** (売上+9.1% 経常利益+37.0%)
- 対業績予想**増収増益** (売上+1.9% 経常利益+15.1%)
- 売上高及び経常利益ともに**過去最高記録を達成**
- 1株当たりの配当金を10円(予想) ⇒ **13円へ増配**

## トピックス

- 2019年10月 アシストスーツEp+ROBOを発売
- 2020年2月 東レ(株)様にてスマートパレット<sup>(※)</sup>を利用したパレット輸送を拡充
- 2020年3月 横浜営業所を開設、国内営業所が13拠点に増加
- 2020年5月 家庭紙向けパレットが国交省の物流ガイドラインにて先進的な好事例として紹介される  
([https://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha04\\_hh\\_000215.html?fsi=PTkuMdc5](https://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha04_hh_000215.html?fsi=PTkuMdc5))
- 2020年7月 グレンカル・シナリー(株)へ出資

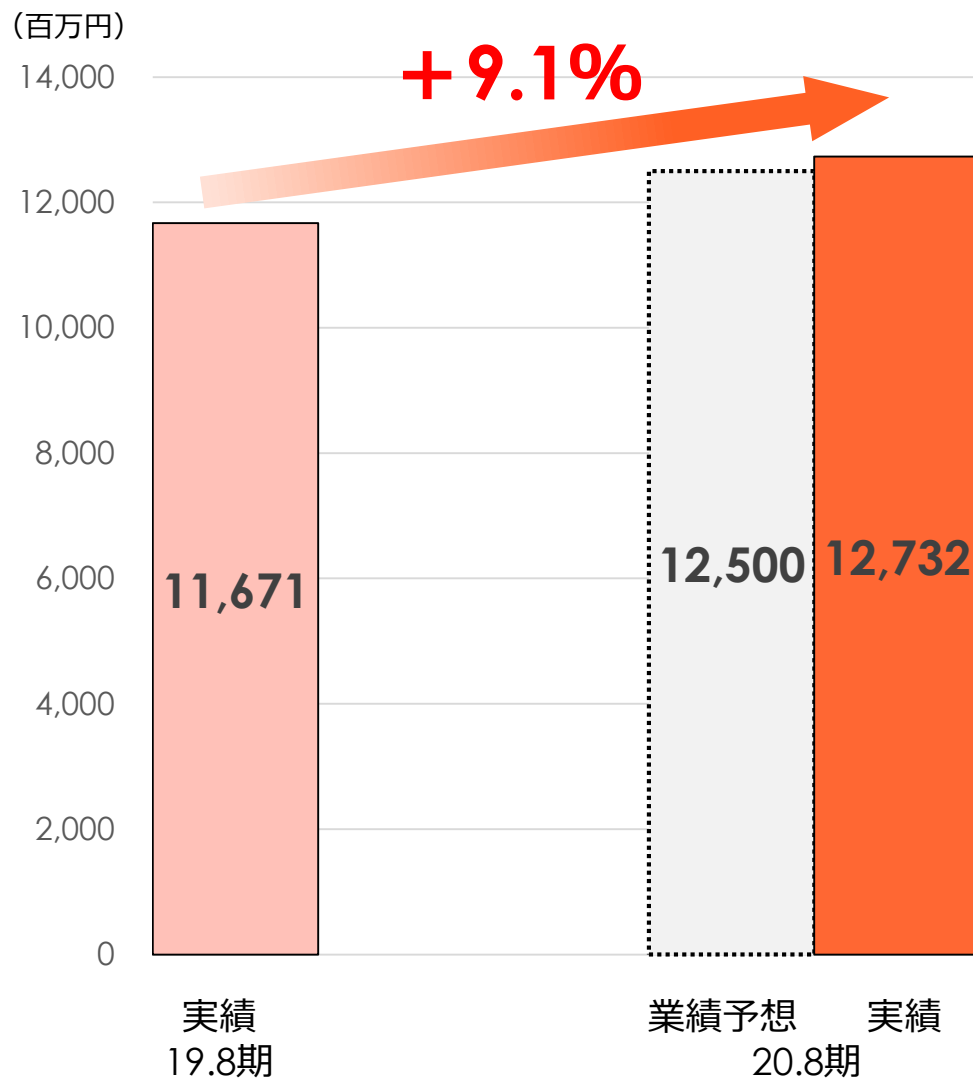
※スマートパレットとは当社とNTTが共同開発した電波が最大300m飛ぶ最先端技術のアクティブタグを搭載したパレットです

## 業績に対してプラスに影響

- 在庫が滞留したことにより、短期的に保管用パレットのレンタル需要が増加。
- 手積み手卸しによる荷役は三密のリスクが高く敬遠されたことで、パレット輸送化の重要性及び必要性が再認識された。
- 近年非接触に焦点が当たり、パレット輸送や遠隔監視等、当社事業の大部分を占める無人・非接触ビジネスにチャンスが広がっている。

## 業績に対してマイナスに影響

- 対面営業が制限されており、レンタル新規顧客獲得スピードが鈍化。
- 各種展示会等が軒並み中止となったことで、アシストスーツ事業の拡販が低迷。
- ビークルソリューション事業の主要取引先からの受注が減少。2021年8月期における同事業の通期売上高は対前年割れの予想。

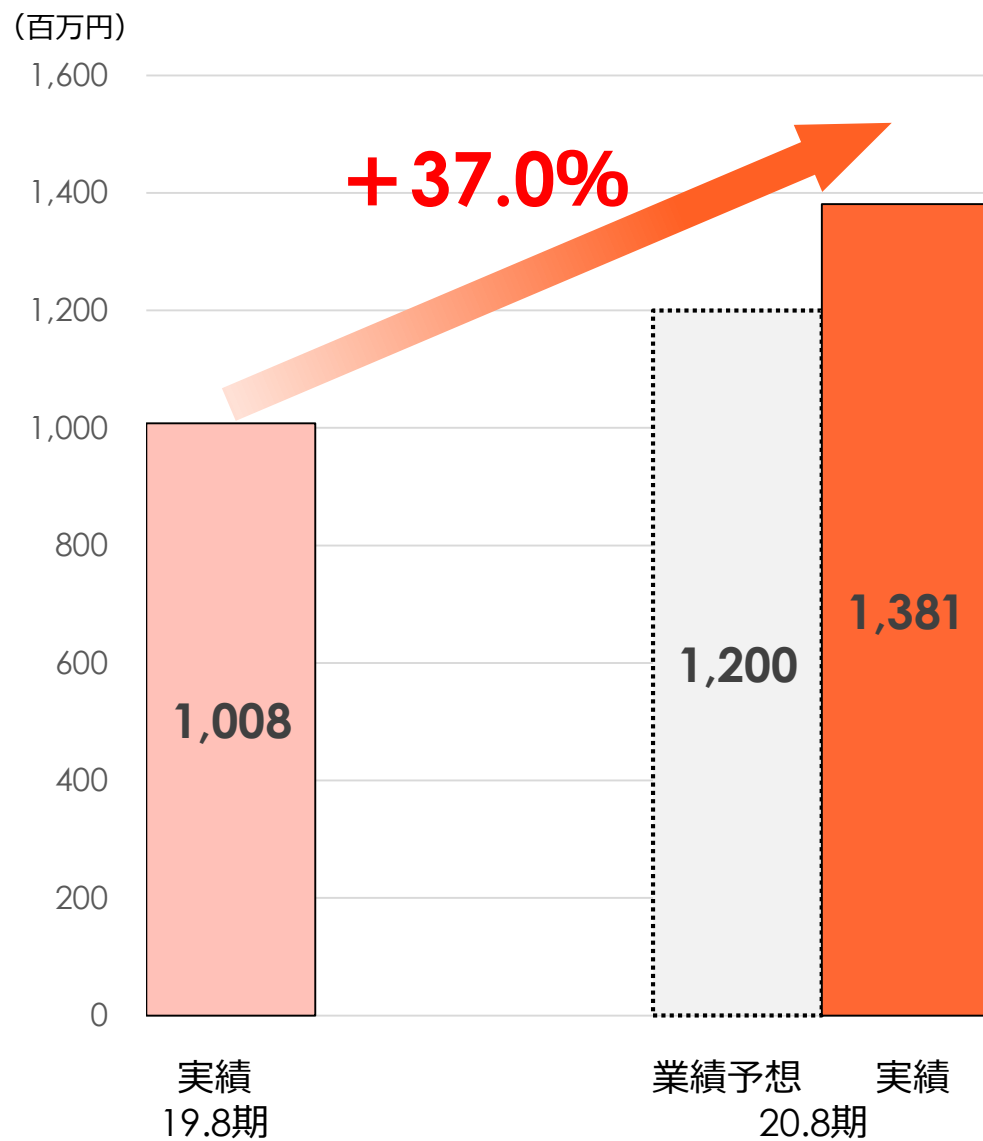


過去最高の売上高を達成

- 対前年  
**+9.1%の増収**
- 対業績予想  
**+1.9%の増収**

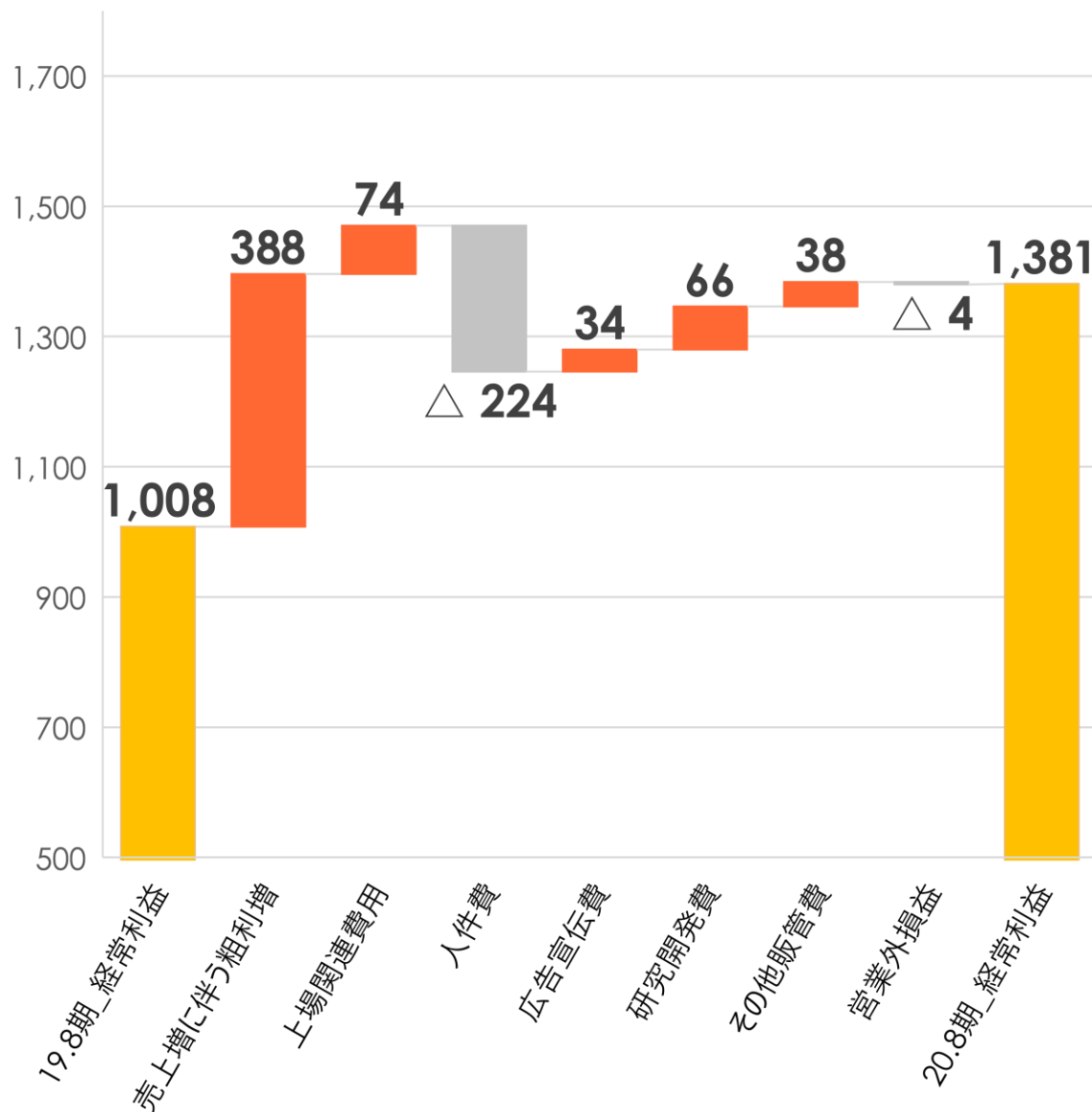
(単位：百万円)		19.8期	業績予想	20.8期	対前年 増減額	対前年 増減率	対業績予想 増減額	対業績予想 増減率
物流事業	レンタル	7,889	8,678	<b>8,557</b>	667	8.5%	△120	△1.4%
	販売	2,498	2,532	<b>2,794</b>	296	11.9%	263	10.4%
	アシストスーツ	141	223	<b>150</b>	9	6.9%	△72	△32.5%
	物流IoT	329	310	<b>342</b>	14	4.3%	32	10.4%
	合計	10,857	11,743	<b>11,845</b>	988	9.1%	102	0.9%
コネクテッド事業	ICT	321	266	<b>349</b>	28	8.9%	84	31.7%
	ビークルソリューション	494	502	<b>537</b>	44	9.0%	35	7.1%
	合計	815	768	<b>887</b>	72	8.9%	119	15.6%
<b>全社合計</b> (うち海外)		<b>11,671</b> (445)	<b>12,500</b> (497)	<b>12,732</b> (476)	<b>1,061</b> (31)	<b>9.1%</b> (7.1%)	<b>232</b> (△20)	<b>1.9%</b> (△4.2%)

- 全ての事業で対前年増収を達成
- 対業績予想ではレンタル事業及びアシストスーツ事業で未達となったものの、販売、物流IoT、ICT及びビークルソリューション事業で挽回し、全社合計で達成
- 全社としての売上高は過去最高



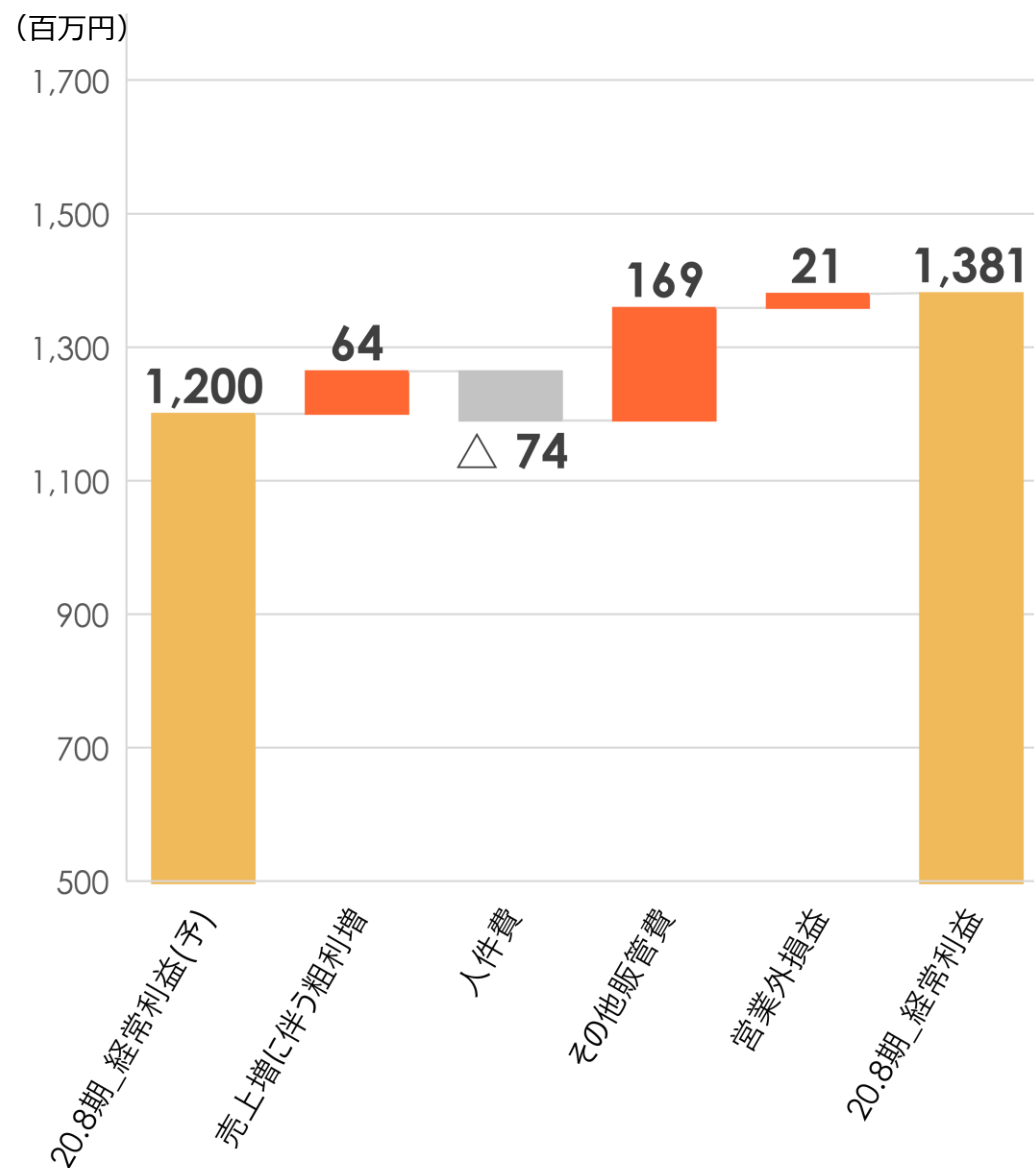
■ 対前年  
**+ 373百万円**  
**+ 37.0%の増益**

■ 対業績予想  
**+ 181百万円**  
**+ 15.1%増益**



- ◆ **人件費**  
人員増（+14名）及びベースアップ
- ◆ **広告宣伝費**  
国際物流総合展  
19.8期：39百万円（2018年9月開催）  
20.8期：15百万円（2020年2月開催）
- ◆ **研究開発費**  
19.8期：サポートジャケット  
Ep + ROBO 103百万円  
20.8期：ビークルソリューション  
車載器 38百万円
- ◆ **その他販管費**  
旅費交通費減：36百万円
- ◆ **営業外損益**  
受取補償金増：46百万円  
出資に伴う配当金：29百万円  
保険解約金：△70百万円





## ◆ 人件費

業績好調につき従業員の賞与増

## ◆ その他販管費

広告宣伝費減：△23百万円

コロナ禍により展示会等が中止または延期

交際費・旅費交通費減：△68百万円

営業活動の制限により削減

# 損益計算書 (PL)

(単位：百万円)	19.8期	業績予想	20.8期				
			対前年 増減額	対前年 増減率	対業績予想 増減額	対業績予想 増減率	
売上高	11,671	12,500	<b>12,732</b>	1,061	9.1%	232	1.9%
売上原価	7,436	7,941	<b>8,109</b>	672	9.0%	168	2.1%
売上総利益	4,234	4,558	<b>4,622</b>	388	9.2%	64	1.4%
売上総利益率	36.3%	36.5%	<b>36.3%</b>	-	0.0%	-	△0.2%
販売費及び一般管理費	3,477	3,583	<b>3,488</b>	10	0.3%	△95	△2.7%
販管費率	29.8%	28.7%	<b>27.4%</b>	-	△2.4%	-	△1.3%
営業利益	756	975	<b>1,134</b>	377	49.9%	159	16.4%
営業利益率	6.5%	7.8%	<b>8.9%</b>	-	2.4%	-	1.1%
経常利益	1,008	1,200	<b>1,381</b>	373	37.0%	181	15.1%
経常利益率	8.6%	9.6%	<b>10.8%</b>	-	2.2%	-	1.2%
当期純利益	573	775	<b>984</b>	411	71.8%	209	27.0%
当期純利益率	4.9%	6.2%	<b>7.7%</b>	-	2.8%	-	1.5%
設備投資額	4,605	6,067	<b>4,680</b>	74	1.6%	△1,386※2	△22.9%
減価償却費	2,048	2,258	<b>2,288</b>	240	11.8%	30	1.4%
EBITDA※1	3,004	3,494	<b>3,773</b>	769	25.6%	279	8.0%
研究開発費	194	160	<b>129</b>	△65	△33.7%	△30	△19.3%

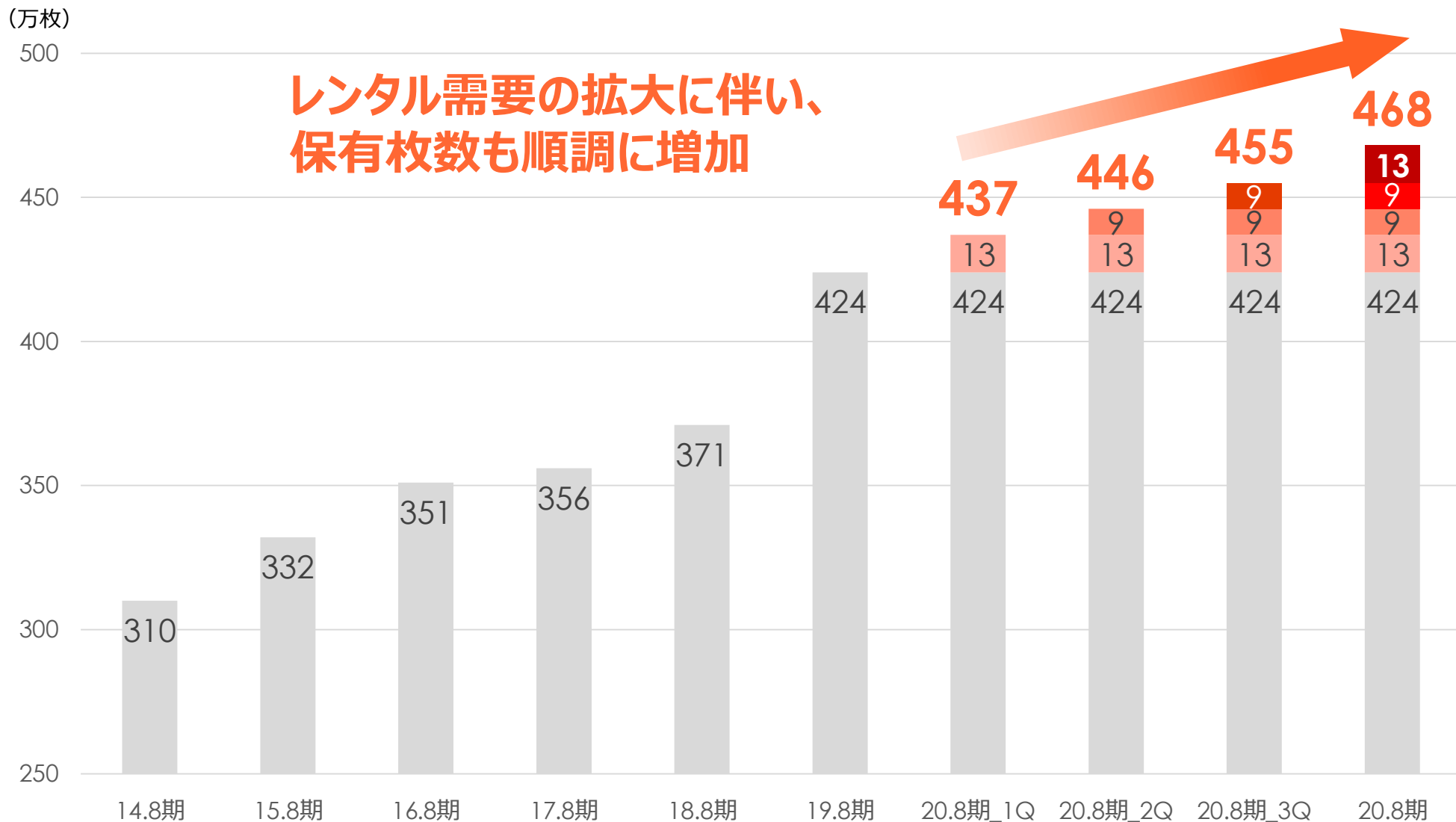
※1：EBITDA = 税引前当期利益 + 減価償却費 + 支払利息

※2：自社デポ建設費用が21.8期へずれ込んだため

（単位：百万円）

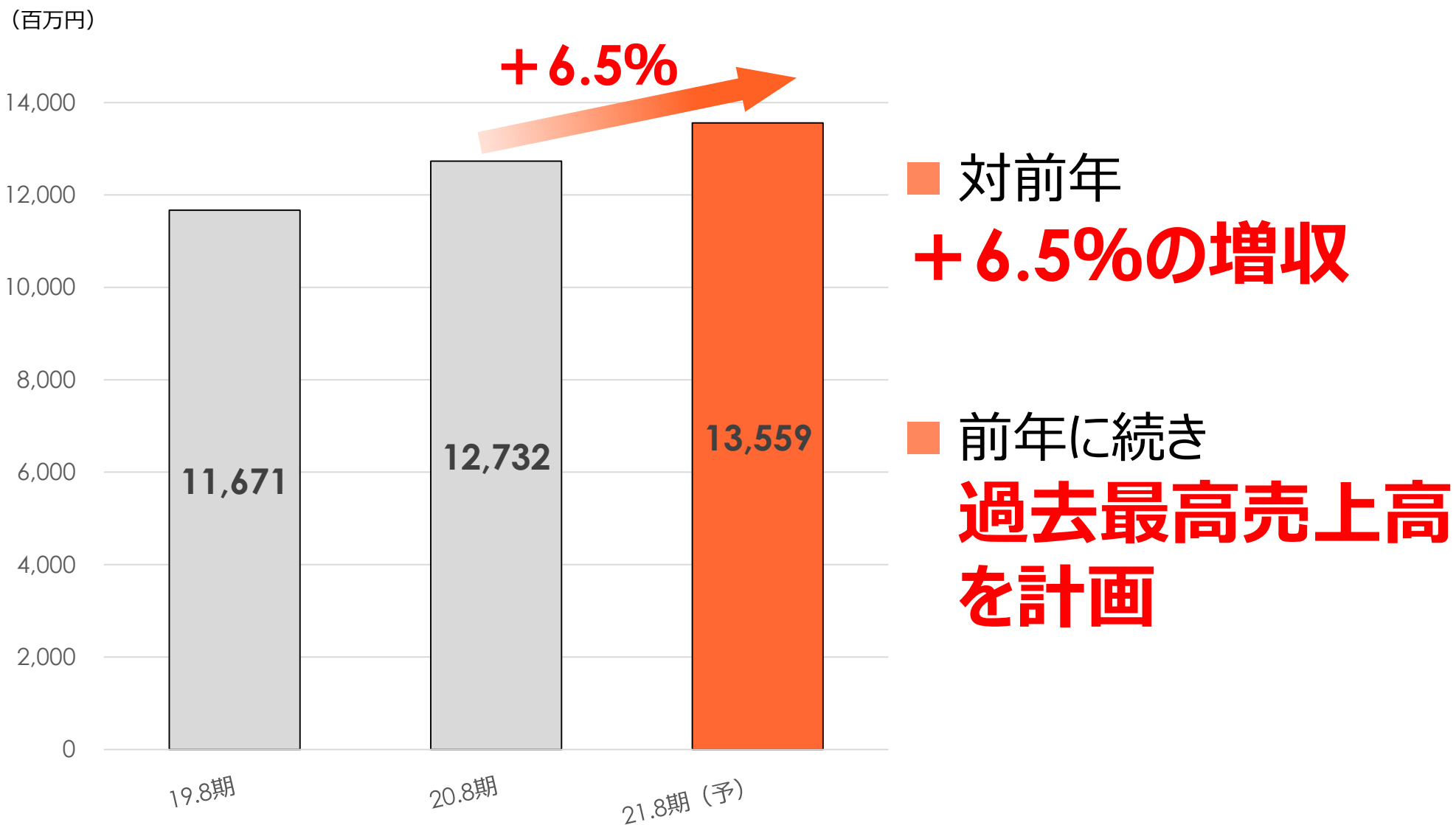
	19.8期	20.8期	増減額	
			増減額	コメント
流動資産	5,264	<b>6,105</b>	840	
現金及び預金	3,023	<b>3,658</b>	634	
固定資産	11,618	<b>13,923</b>	2,305	
レンタル資産（純額）	8,188	<b>10,627</b>	2,439	レンタルパレット購入による増加
<b>資産合計</b>	16,882	<b>20,029</b>	3,146	
<b>負債合計</b>	11,026	<b>13,285</b>	2,259	長期借入金及び買掛金の増加
株主資本	5,811	<b>6,734</b>	923	利益剰余金の増加
<b>純資産</b>	5,856	<b>6,743</b>	887	
<b>負債・純資産合計</b>	16,882	<b>20,029</b>	3,146	

	19.8期	20.8期	増減額	
			増減額	コメント
営業活動によるキャッシュフロー	2,298	<b>3,301</b>	1,002	
投資活動によるキャッシュフロー	△4,235	<b>△4,245</b>	△9	
財務活動によるキャッシュフロー	1,915	<b>1,580</b>	△334	
現金及び現金同等物の増減額	△31	<b>634</b>	666	
現金及び現金同等物期末残高	3,023	<b>3,658</b>	634	





## 2. 2021年8月期 業績予想

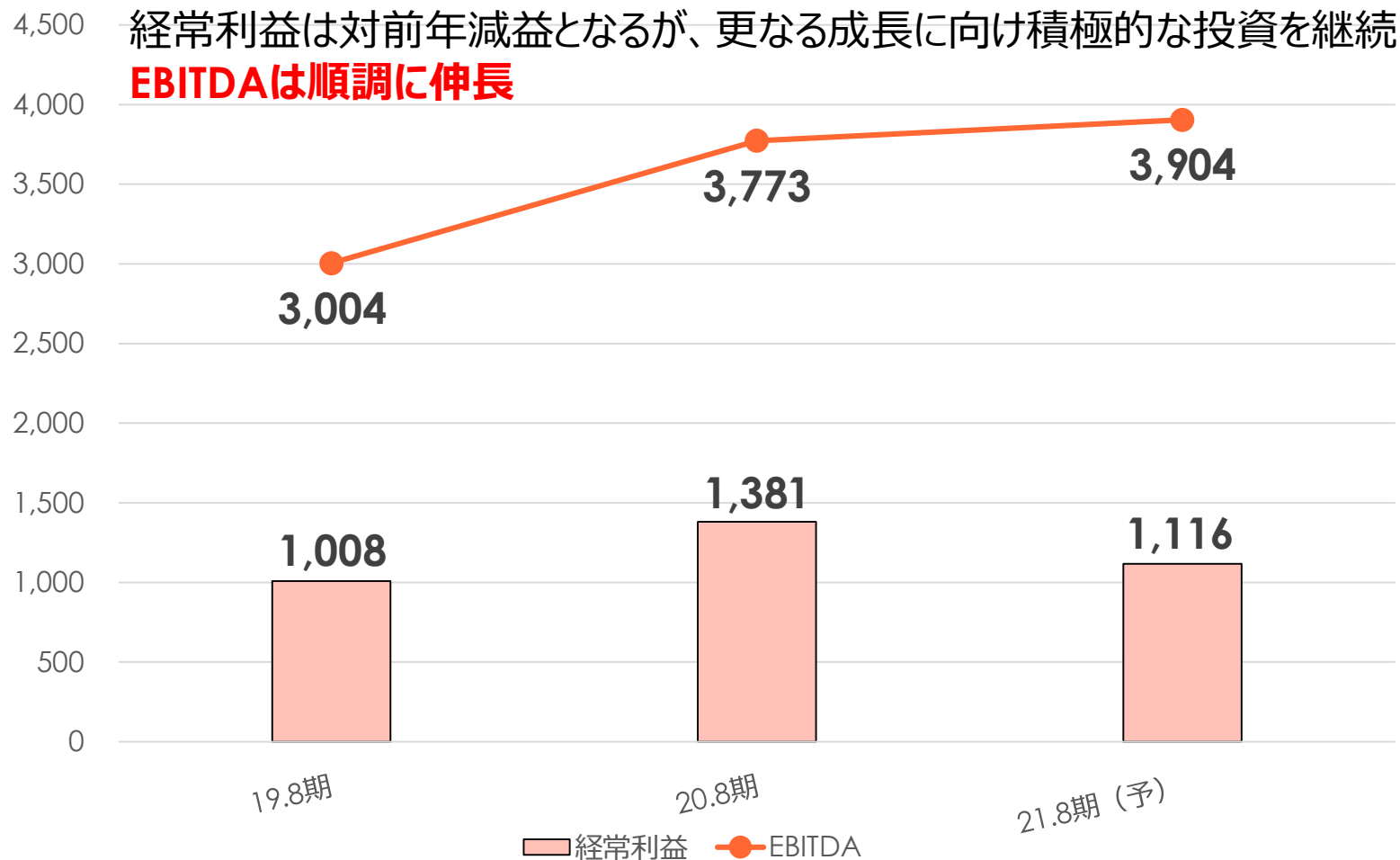


# 通期業績予想売上高詳細

(単位：百万円)

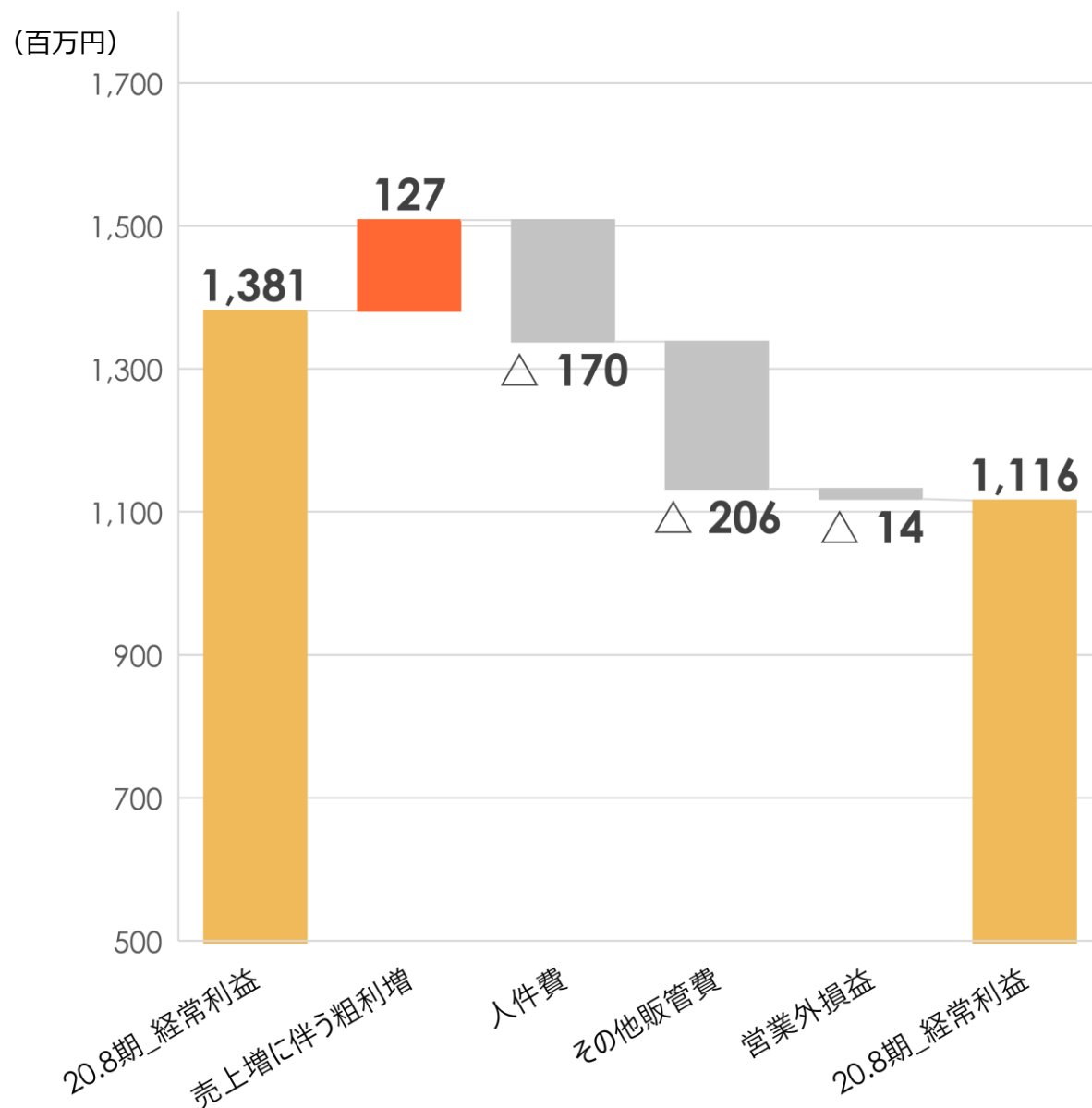
		20.8期	21.8期 業績予想	対前年 増減額	対前年 増減率	コメント
物流事業	レンタル	8,557	<b>9,365</b>	808	9.4%	保管用及び輸送用の需要が順調に拡大
	販売	2,794	<b>2,717</b>	△77	△2.8%	前年並みの売上を維持
	アシストスーツ	150	<b>280</b>	130	86.4%	新商品（Bp+PROⅡ）の導入及び販売チャンネルの拡大により前年比大幅増
	物流IoT	342	<b>380</b>	37	10.9%	
	合計	11,845	<b>12,743</b>	898	7.6%	
コネクティッド事業	ICT	349	<b>380</b>	31	8.9%	
	ビークルソリューション	537	<b>434</b>	△103	△19.2%	主要取引先からの受注減が影響
	合計	887	<b>815</b>	△71	△8.1%	
<b>全社合計</b> (うち海外)		<b>12,732</b> (476)	<b>13,559</b> (511)	<b>826</b> (34)	<b>6.5%</b> (7.3%)	

(百万円)



- 日用雑貨業界向け新型パレットを導入し、積極的にパレットを購入。その結果、減価償却費及び保管料が増加。
- 営業活動をコロナ前の水準に戻す前提で経費を予算化。





## ◆ 人件費

人員13名増員予定

## ◆ その他販管費

広告宣伝費増：+35百万円

展示会等への出展を再開

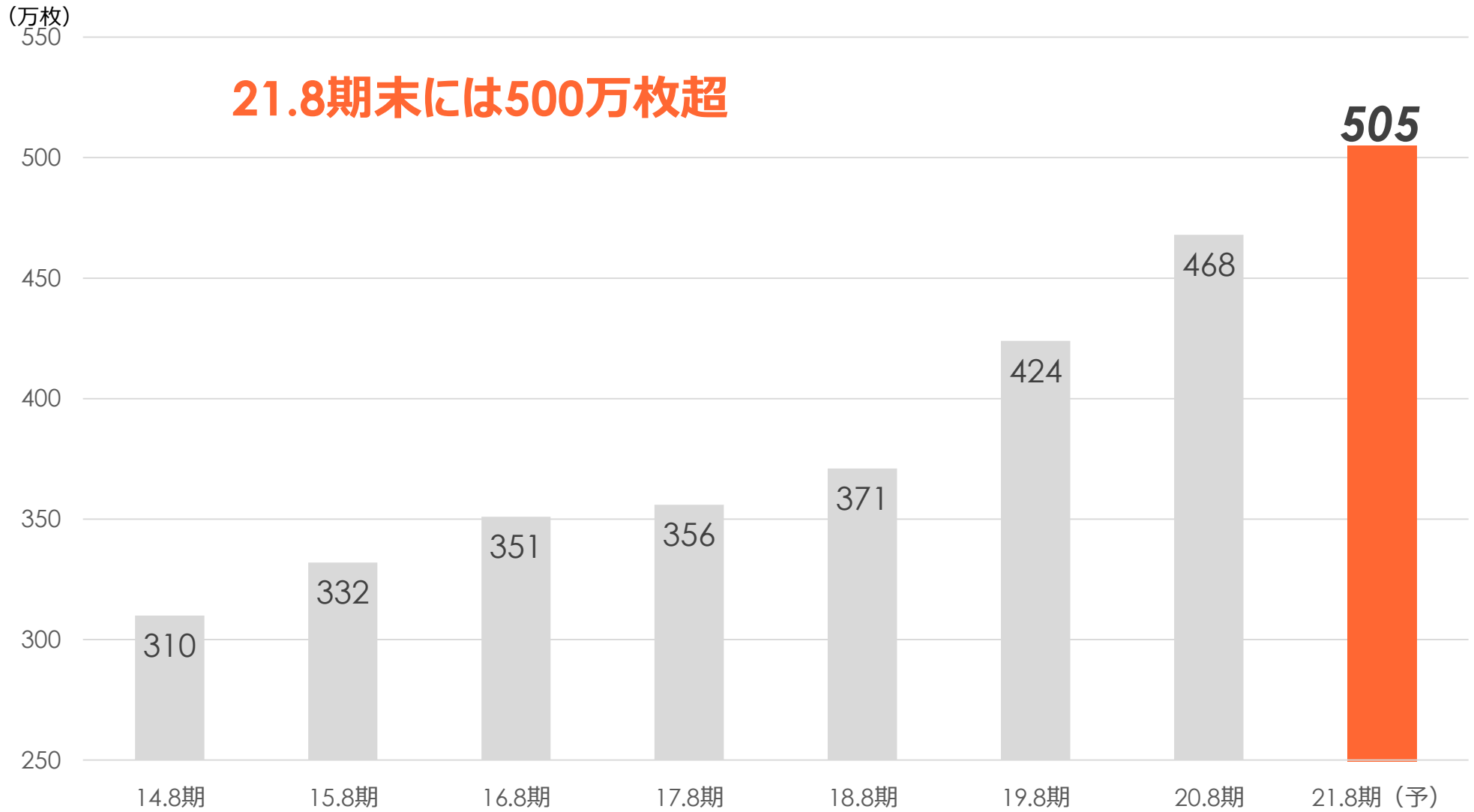
交際費・旅費交通費増：+73百万円

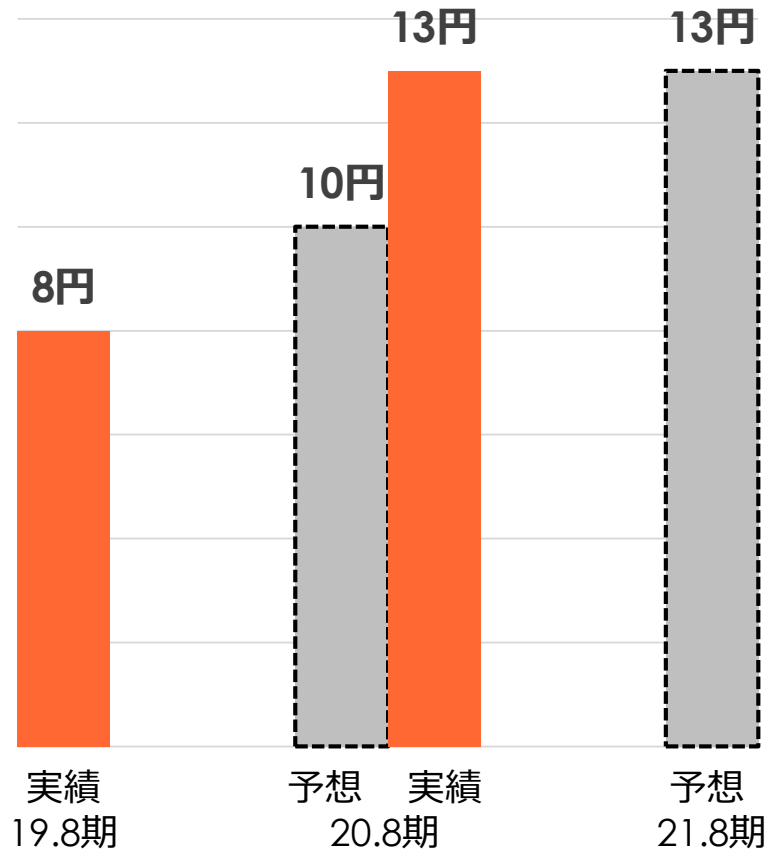
営業活動をコロナ前の水準に戻す

# 損益計算書 (PL)

(単位：百万円)					
	20.8期	21.8期	対前年 増減額	対前年 増減率	コメント
売上高	12,732	<b>13,559</b>	826	6.5%	
売上原価	8,109	<b>8,809</b>	699	8.6%	
売上総利益	4,622	<b>4,750</b>	127	2.8%	
売上総利益率	36.3%	<b>35.0%</b>	－	△1.3%	減価償却費及び保管料増による
販売費及び一般管理費	3,488	<b>3,865</b>	376	10.8%	
販管費率	27.4%	<b>28.5%</b>	－	1.1%	営業活動をコロナ前の水準に戻す前提で予算化
営業利益	1,134	<b>884</b>	△249	△22.0%	
営業利益率	8.9%	<b>6.5%</b>	－	△2.4%	
経常利益	1,381	<b>1,116</b>	△264	△19.1%	
経常利益率	10.8%	<b>8.2%</b>	－	△2.6%	
当期純利益	984	<b>725</b>	△258	△26.3%	
当期純利益率	7.7%	<b>5.4%</b>	－	△2.3%	
設備投資額	4,680	<b>6,152</b>	1,472	31.5%	20.8期に計画していた自社デポ建設費用が21.8期にずれ込み
減価償却費	2,288	<b>2,751</b>	462	20.2%	レンタルパレットの償却費増
EBITDA(※)	3,773	<b>3,904</b>	130	3.5%	
研究開発費	129	<b>107</b>	△21	△16.6%	

※EBITDA = 税引前当期利益 + 減価償却費 + 支払利息





## 【基本方針】

- 親会社株主に帰属する当期純利益の10%程度を配当総額とする
- 対前期減益となっても減配しないことを原則とする
  1. 2020年8月期の1株当たり配当金は13円
  2. 2021年8月期は減益予想だが、1株当たり配当金は前期と同じ13円とする予定

## 【免責事項】

本資料の作成に当たり、当社は当社が入手可能な情報の正確性や安全性に依拠し、前提としていますが、その正確性あるいは安全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。また、発表日現在の将来に関する前提や見通し、**誣**に基づく予想が含まれている場**合**がありますが、これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び**合理的**であると判断する一定の前提に基づいており、当社として、その達成を約束するものではありません。当該予想と実際の業績の間には、経済状況の変化や他社との競**合** 合法規制の変更等、今後のさまざまな要因によって大きく差異が発生する可能性があります。なお、当社は新たな情報や将来の事象により、本資料に掲載された将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

本資料は、投資勧誘目的で作成されたものではありません。

実際に投資を行う際は、本資料を全面的に依拠した投資判断を下すことはお控えください。

いかなる目的でも、本資料の一部または全部を、無断で転載、二次利用することはご遠慮ください。